

別の顔



あり挑戦したところ審査員賞を受賞。そのときに芸能スクールで音楽を学んでみないかと勧誘されました。レッスンは基本的に1リモットで行われますが、月に1〜3回ほど東京での授業に参加し、入学して1年後にオーディションを受

鹿屋女子高校
わかばやし ゆめな
若林 由愛菜 さん(3年生)



鹿屋女子高軽音楽部でバンド「Bright Sea」に所属し、今年1月の「二十歳のつどい」で演奏を行った。あこがれのアーティストは「ずっと真夜中でいいのに。」の「ACAね」さん。

けました。音楽企業など約100社を前にしての歌声披露はとても緊張しましたが、その結果、芸能事務所にスカウトされ所属することになりました。アーティストの方々が歌や歌詞に込めた感情などを、自分で表現できるのが音楽の面白いところであり楽しいところ。今後は、音楽業界でさらに上のステップを目指しながら活動に励んでいきます。



歌 うことが大好きで、小学校の頃に合唱クラブに所属していました。高校で軽音楽部に入部し、20曲くらい作詞作曲を行いました。高校1年の冬に、母の友人からオーディションの話が



昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!

タイムトラベル ~温故写新~

18話

馬産地輝北と 市成栗毛



▶種牡馬藤戸号碑

中国の冀州は名馬の産地であり「驥」とは1日に千里走る駿馬のことを指します。さらに冀州北部は驥北と呼ばれ、これが町名の由来となっていることから分かる通り、輝北町では産馬が盛んに行われていました。

弘化元年(1844年)に市成村宮園で足の速い馬が生まれた際、当時の市成領主であった島津石見がこれを「市成栗毛」と命名し、自身の乗る馬としました。同年3月の江戸大火事の時に、川に架かっていた橋が焼け落ちてしまいます。しかし石見がひとたび鞭を振ると、市成栗毛は幅8間(約16m)もの川

幅を難なく飛び越え、見ていた人々は驚愕したと同時に無双の駿馬としてその名を褒め称え、後に島津斉彬の御召馬となりました。その後の繁殖により生まれた馬たちも名馬でしたが、明治初期に官軍に徴発され行方不明となりました。
明治27年には、産馬改良のために明治天皇の御料馬「藤戸号」が種馬として百引村に下賜され子を残すも、わずか4か月後に病死。冥福を祈るために住民は、現在の百引多目的グラウンドに「種牡馬藤戸号碑」を建立しました。
そのほかにも、毎年4月に輝北畜産祭りが行われる日枝神社はその昔、武士の乗馬の練習場や馬の競り市場として広く利用されていたなど、輝北町には馬にまつわるエピソードが数多く存在しています。



▲川を飛び越えた逸話は、大崎町野方産の「荒佐野号」のエピソードであるといった説もあります。(写真は「鹿児島県畜産史」)